

研究課題「筋・腱・靭帯損傷治癒過程の解明、非侵襲的検査を用いた後方視的研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

・2013年4月1日～2025年3月31日までの間に名古屋大学附属病院、米田病院、新城市民病院にて以下の疾患の治療をうけられた方

・疾患名：肩腱板断裂、反復性肩関節脱臼、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、肩こり、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、腰痛症、腰椎分離症、手関節部腱鞘炎、ド・ケルバン病、手指屈筋腱鞘炎、鵞足炎、腸脛靭帯炎、アキレス腱断裂、足底筋膜炎

2. 研究目的・方法・研究期間

研究の目的：

肩こり、腰痛、頸部筋肉痛、テニス肘（上腕骨外側上顆炎）、肩関節周囲炎、腰痛などの筋肉、腱、筋膜に由来する疾患の疼痛は、多様な局所症状を引き起こし、プレゼンティズムとよばれる、労働生産性の低下に大きく寄与している可能性が指摘されています。

これらの疾患は罹患率が高いにもかかわらず、原因や病態については不明な点が多いのが特徴で、治療方法是对処療法としてのマッサージ療法、ストレッチによる筋膜リリースが中心に行われてきました。しかし治癒過程においてどのように症状緩和、治癒に至るかはよくわかっていません。近年の画像評価技術や疾患特異的な患者立脚評価が複数開発されており、こうした手法を利用することで治療の経過を客観的に評価でき、病態の解明につながる可能性があります。

本研究では、近年確立された画像評価技術や疾患特異的な患者立脚評価を利用することで、これまで治療者、患者ともに主観的に評価をしていたこれらの疾患に「客観性」の要素を取り込むことを目標とします。研究により画像を用いた治癒過程の客観的観察、患者立脚評価の推移などをみていくことで、自覚的症状の強さと客観的所見の相関や乖離を明らかにしていきます。治療によってどの部分が治癒してくるのか判明し、治療として意味がある治療とそうでない治療を明らかにしていくことで、治療のエビデンスの確立に貢献することが期待されます。

方法：

すでに診療の際に採取した情報、検査画像を過去にさかのぼって調査します。調査によってえられたデータは統計学的手法を用いた解析を行い、病態の解明や治療のエビデンスを構築していくのに役立てます。

研究期間：実施承認日～2027年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報として、身体プロフィール(身長・体重等)、主観的症狀、関節可動域、筋力、患者立脚評価アンケートの結果、レントゲン写真やエコー、CTなどの検査画像等を研究に用います。

4. 外部への試料・情報の提供

データはカルテの診療情報と画像を含みます。研究に用いたデータは、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行い、以下の共同研究組織の中でのみ扱います。

5. 研究組織

名古屋大学医学部附属病院手の外科 平田 仁、岩月 克之、米田 英正、大山 慎太郎

名古屋大学医学部附属病院整形外科 中島 宏彰

特定医療法人米田病院 米田 實

岡崎市民病院整形外科 大西 哲朗

新城市民病院総合内科 榛葉 誠、木村 天永

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、研究結果を公表した後は、お申し出頂いた患者さんのデータを除去できない場合があります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院手の外科 助教 米田 英正

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

直通電話番号 052-744-2957

研究責任者：

名古屋大学予防早期医療創成センター

名古屋大学医学部附属病院 手の外科 教授 平田 仁

研究代表者：

名古屋大学予防早期医療創成センター

名古屋大学医学部附属病院 手の外科 教授 平田 仁